

定例公安委員会の開催状況について

令和2年9月10日（木）に、第26回定例山形県公安委員会を開催し、議事の概要は次のとおりでした。

1 夏期における山岳遭難・水難の発生状況について

夏期における山岳遭難・水難の発生状況、山岳救助訓練の実施状況等について報告があった。

委員のコメント

- 山岳遭難の起きやすい山や季節といった特徴を山岳用品の販売店等へ示して遭難防止の広報を行っても良いと思う。水難事故についてもライフジャケットの着用を更に啓発してほしい。
- 新型コロナウイルス感染症の影響が出ていると思う。山岳遭難の件数が減り、海での遊泳もできなかつたため、川で亡くなつた方が見られる。
- 全国的に開設されていない海水浴場で泳いで事故になるケースが見られるが、県内ではそうした事案がなくて良かった。釣りに関しても、水量が多いと流れも速くなり足を滑らせる危険性もある。釣り客に注意喚起が必要だと思う。

2 元暴力団組員等による車両利用の監禁事件の検挙について

本年8月に発生した、元暴力団組員等による車両利用の監禁事件の検挙について報告があった。

委員のコメント

- 凶悪な被疑者であり、まかり間違えば他の犯罪も発生したかもしれず、安全に検挙できて良かった。
- 一般道でカーチェイスにならないよう細かな配慮をし、発生後短時間で検挙した捜査手法を評価する。
- 対策が早かつたことと、追跡する捜査員と停止担当者の連携が検挙の要因だと思う。いろいろな事案に対応する体制ができていると感じるので、今回の教訓を他の職員へも教養し、経験として残してほしい。

3 麻薬取締部との合同捜査による薬物乱用グループの検挙・解体について

麻薬取締部との合同捜査による薬物乱用グループの検挙・解体について報告があった。

委員のコメント

- 先日の現職警察官の件もそうだったが、大麻事案はなかなか表面化しない。情報収集に努めてほしい。

- 若い世代が多いが、これらは氷山の一角だと思う。大麻リキッドなど新たな形で山形に入ってくる可能性が高いが、暴力団の資金源となり、社会の根幹を揺るがす犯罪でもあるので、検挙して広報し、県民の防犯意識を喚起してほしい。
- 大麻から覚醒剤へと悪質性が進んでいくため、若い人への啓発が必要であり、報道機関にも大きく取り上げてもらえるよう働きかけしてほしい。様々なところと連携してほしい。

4 「夏型交通事故防止対策」の実施結果について

「夏型交通事故防止対策」として、交通安全キャンペーンや事故防止広報等を実施した結果について報告があった。

委員のコメント

- 新型コロナウイルス感染症の影響下で交通量が減ったとはいえ、交通部及び各署の努力が結果に結びついたものと思う。重大事故に直結する横断歩行者妨害や一時不停止等の取締件数が昨年より増えていて、積極的にパトロールしていることがうかがえる。『高齢者』と『横断歩行者』の2つが交通事故防止のキーワードだと思うので、対応してほしい。
- 7月、8月の事故抑止、特に死者が少ないのは夏型事故対策の成果であると思う。先日、インターネットで長野県警のニュースを見たら、横断者が手を挙げると車が確実に止まるという実験をした女子高校生の記事が出ていた。我が県でも手を上げて横断の意思を示す取組をしてはどうか。
- 『左右の安全確認をして、車を止めて渡る』という意識付けが必要であると思う。加えて最近感じるのは、黄色信号で交差点に入ってくる車が多いことと、携帯電話を使用しながら運転している者がかなりいるということだ。しっかり対策をとってほしい。

5 秋の交通安全県民運動の実施について

本年9月21日から同月30日まで、秋の交通安全県民運動を実施する旨の報告があった。

委員のコメント

- 高齢ドライバー、高齢歩行者、高齢自転車が重視すべき対象と思う。9月は世界アルツハイマーデーがあり、認知症の早期発見に努めるキャンペーンもあるので時宜を得た活動であると思う。薄暮時間帯の事故が増えるとのことなので、秋の交通安全県民運動を山形県の交通文化として維持してほしい。
- 山形県の交通死亡事故の抑止目標は何人か。(交通部長から「30人以下である。」旨回答した。) 今、20人なのであと4か月頑張ってもらいたい。また、この目標は24時間以内に亡くなった交通事故死者のみの数なので、負傷者そのものを減らすように考えてほしい。
- 交差点に黄色で進入するなど危険な運転をするのは必ずしも高齢者ではない。携帯電話の使用も含め、比較的若い世代も多いので、指導取締りを実施したら分析をしてほしい。